

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 60 回まちづくり構想部会）会議録

日 時：令和 8 年 3 月 12 日（木）午後 8 時 00 分～午後 8 時 45 分
場 所：東淀川区役所 3 階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 議題
 - ・ (1) 地域での活動報告及び意見交換
 - ・ (2) その他
- 3 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 第 59 回「まちづくり通信」
- ・ 【資料 1】地域での活動報告関連資料

1. 開会

2. 議題

(1) 地域での活動報告及び意見交換

(事務局)

- ・ 本日は、啓発地域、下新庄地域および東淡路・柴島地域の各地域からご報告を頂く。

(啓発地域 部会員)

- ・ 地域の皆さんの思いを知るために未来会議を行い、3月27日に3回目を開催する。そもそもの趣旨としては、10年、20年、50年先の啓発地域を考えていくにあたり、高齢者だけでなく未来に残る子供たちも含めて考えていかなければならないのではという趣旨で始めたものである。
- ・ 全体を4つのカテゴリーに分けて進めており、1つ目は、成功事例から学ぶということで洛西口の高架下等の事例を紹介し、皆さんから意見を聞いた。2つ目は、子ども達の声を聞くということで、今回の未来会議では、高校生4人が参加してくれていて、今の想いや何がしたいといった意見を聞いた。3つ目は、昔は良かったというが何が良かったのかについて振り返った。
- ・ 1回目、2回目の意見をまとめてみると、やはり遊ぶ場所や集う場所が欲しいということである。高校生からも、集まって何かできるのではないかと、駄菓子屋や集まる場所、色々なことができる遊べる場所が欲しいという話が出ていた。
- ・ 第3回は、何故そう思うのかを集めて、どの様に解決していくのかを考え、4つ目のカテゴリーの理想のまちづくりとは何かをまとめていこうと考えている。ただ、大きなことをやるのではなく、やれるところからやって行くこととしている。

(下新庄地域 部会員)

- ・ 先ほどの協議会でお話したとおり、アクションプランについてはほぼ完成している。これをサブスローガン「つなぐ・つなげる・つづける」の様に、後の世代につなげていきたいと考えている。
- ・ アクションプランにも課題として記載しているが、人材、人員の確保が一番の課題となっている。現在、年間を通してかなりの行事を行っているが、まだまだ下新庄地域でこんなことをやっているの知らない方もおられる。その対策として、資料にもあるが、下新庄駅の工事の仮囲いに活動風景についてまとめた

ものを大きく貼り付けたいと考えている。これにより、皆さんに浸透してつなげていきたいと考えている。

- ・現在、30代、40代の方たちで積極的に参加してくれる方が増えてきている。先ほど協議会でもお話ししたが、祭りを一緒にしようということも考えているので、高架切り替えについてよろしくお話ししたい。

(東淡路・柴島地域 部会員)

- ・2月20日の13時40分から東淡路小学校の講堂で、東淡路・柴島地域の未来まちづくりプロジェクトに取り組んでいただいた小学6年生の発表会があった。全保護者には学校からアプリを使って案内し、地域の方には地域の新聞で案内および直前の地域活動協議会でも案内し、当日は約50名の方が参加された。
- ・6年生は1組2組をそれぞれ7班に分かれて、自分たちのプロジェクトを各班5分くらいで順番に説明してくれた。全部で14テーマあったが、本日はその中から4テーマをご紹介します。
- ・1つ目は、未来が安全で豊かなまちづくりということで、これを提案したきっかけというのが、森林の面積が凄く減っているし、自分たちの地域は淀川の近くだけど緑が少ないということからのようである。そのため、公園を作って四季を感じられる植物を植えることで、季節を楽しめて多くの人が訪れるのではないかとということである。また、家族連れの人があるような建物を増やす、いちご狩りなどの季節のイベントをすることで何度も来たくくなるようなまちづくりになるのではという提案であった。
更に、重要なテーマだが、防災に関する意識が子ども達はすごく強く、かまどベンチやトイレを公園に設置するというのは、公園をテーマにしたものにはほとんど入っていた。
- ・2つ目は、孤独がないまち、楽しく暮らせるまちへという提案であった。このテーマを選んだ理由としては、犯罪をなくし、地域の持続可能な発展、外国人や他の県の人たちに気軽に楽しんでもらえるまちづくりにするためということである。その提案の中には、子ども食堂や外国人が集まれる場所、そのまちならではのシンボリックなものを作ったらどうかという意見が出ていた。また、日本一長い商店街を作りたいというものがあり、その商店街で英語教室があったり、サバイバルゲームができたり、イベントがあり、誰でも参加できるような商店街になればよいということであった。
最後のまとめでは、東淡路・柴島地域がそのようなまちになるには、孤独が無くて、楽しく暮らせるまちになる必要があるという風にまとめていた。
- ・3つ目は、高齢者や障がい者にやさしいまちということであった。インクルーシブ公園を整備し、その公園の中には障がい者の車椅子の方も遊べる砂場等があるのはどうかという提案である。また、高齢者と若い人のかかわりを増やせる場所として、世代の違う人の集まる料理教室をすると、料理を一緒に食べれば関わりが深まるのではないかとということであった。更に、子どもたちは高齢者の気持ちはわからないとして、高齢者の人に聞いてみたところ、会話ができる市場、散歩コース、公園に緑を増やす、語らえる場所などが欲しいとのことであった。障害者や高齢者に優しいまちにすれば、誰とでも交流できるようなまちが実現できるとのことであった。
- ・4つ目は、こちらは健康なまちづくりについてということであった。まず健康については、健康な生活をするには体を動かすことが大切で、高架の下を、ランニングコースとジョギングコースにしてはどうかということであった。1km間隔でベンチや自動販売機やコンビニを建てることで、今日はここまで走ろうとなるのではないかと。また、ゴール地点にコインロッカーや銭湯などを建てることで、荷物を預けられるし、お風呂にも入れるという。自分も利用してみたくなるというような意見もあった。あと、食事ができる場所を

作って、この地域に来たときにコミュニティが作れるような場所があるとよいということであった。

- ・保護者 13 名、地域の方 8 名にアンケートを取らせていただいた結果、感想では、今まで知らなかったことが子どもたちの発表で知れた、ランニングコースや雨の日に遊べる場所は実現して欲しいということであった。厳しい意見としては、公園を作るにも財源や管理する人件費が必要であり理想論のように感じるが、ぜひ、区役所の方には頑張ってくださいという意見があった。
- ・また、このまちにあればいいなと思うことはありますかというアンケートでは、阪急淡路駅前の駐輪場、かまどベンチやトイレ、インクルーシブ公園、駄菓子屋、公衆トイレ、防犯上逃げ込める空間、ボール遊びができる場所などがあった。
- ・約 1 か月くらいで、子ども達がプロジェクトを仕上げたが、今回の発表を受けて、この思いをしっかりと受け取り大人として実現に向けて進めていきたいと考えている。

(質疑応答)

(部会員)

- ・東淡路・柴島地域の発表の中で、日本一長い商店街の話が出たが、とても面白い意見だと思った。商店街はどうしても組合で考えてしまいがちである。子供たちは、どこからどこまでをイメージしているのか。

(東淡路・柴島地域 部会員)

- ・発表では、東淡路商店街から柴島浄水場の高架下をイメージしているようである。

(部会員)

- ・新しく土地開発があった時に、そことどうつながるか、アクセスポイントはどうなっているのかが、いつも気になるが、途中で切れてしまうと道として繋がって行かないので、こういった発想は非常に良いと思う。

(部会員)

- ・東淡路・柴島地域の報告の中で、ランニングコースが良いと思った。上新庄地域の新幹線の下で、夜や雨の日に走っている人を良く見かける。往復すると、約 800 メートルから 1 キロメートルになっているので、雨でも夜でも走れるというのはランナーからすれば最高の環境であると思う。ただ、自転車も走るし、車も通るのでお互いに怖いと思われるので、それを防ぐのは夢のような話だが、ランニングコースとして現実できればと思った。

(久名誉教授)

- ・各地域で意見交換をどんどん進めていただいていると思うが、意見交換するほどいろんな意見が出てくるのは常であると思う。私が館長をしている茨木市の「おにクル」も 108 回の意見交換をして、それでオープンしているので、毎年 200 万人来てもらっているということになっている。担当の方がずっと一人でやってくれているが、最初、構想を作る時に意見交換をやった中で、担当の方が言ったのが、「勝手なことばかり言ってまとめようがないけどこれって広場ですね。」ということであった。
- ・広場は、自分の好きなところを見つけて、みんな色々なことをやっている。それで建物全体を広場にしようというコンセプトを出してくれた。現在、育てる広場というコンセプトで動かしているが、もう一つの育てるというキーワードがあり、場所は提供するけど、みんなが使いこなして、場所として育ててというお願いもしている。建物ができるまでは、臨時に仮設の広場を作って実験して、建物ができてからそのまま建物の中に持ってきてもらうということをやった。

- ・東淡路・柴島地域の感想の中で、理想論ばかりだという話があったが、理想論を言っても誰かが実現すると、それは夢ではなくなる。他人にやってもらうということを言えば、その言われた人が苦勞するだけの話だから、言った限りは自分もやってほしいというお願いをしている。それが今の「おにクル」につながっている。だからスタッフはいろんな活動をしたいという思いがある人のお手伝いはするけれども、動かすのは自分自身であるというお願いをしている。
- ・地域活動も同じだと考えている。できるだけお客さんを作らないで、自分で動いてもらう人たちを増やしていくというのがポイントであると、改めて今日のお話を聞いて思った。
- ・先ほど、啓発地域の報告の中で、できることから始めて行って、それが合わさって繋がっていくという考え方が、これからのやり方としてはとても良いように感じた。
- ・情報提供として、先ほど啓発地域の報告の中で、駄菓子屋の話が出たが、生駒駅前に「まほうの다가しやチロル堂」というのがある。地域の人たちがお金を出し合って、空店舗を借りてやっている駄菓子屋であるが、実は本当の目的は子ども食堂である。子ども食堂だと、あそこに行っている子どもはという後ろ指を刺されかねないので子ども食堂を表に出さず、駄菓子屋として始められた。
- ・100円を持ってきて、入り口に置いてあるガチャガチャを引くとチロル札という札が入っていて、普通は1枚入っているが、たまに当たりが3枚ぐらい入っていて、300円分買い物できるようなガチャポン抽選なんかも合わせてやっている。駄菓子を買うに来る子どももいるし、100円でカレーが食べられるので、カレーを食べに来る子どももいる。
- ・さらに面白いのは、その子どもたちが安く食べられるよう、資金を応援するために、昼間にランチを出して、夜は居酒屋をしているということである。どうせどこかで酒を飲むなら、チロル堂で飲もうという話である。参考にしていきたい。
- ・東淡路・柴島地域の報告の中で、四季を感じる話になったが、どうしても公園になってしまう。都島に住んでいる今年卒業する学生が、公園を調べてもおもしろくないので、都島の鉢植えの数を徹底的に調べてくれた。こういった下町では緑が無いと思いがちであるが、実は鉢植えがいっぱいある。公園はお金もかかるし公共しか作れないが、鉢植えで四季を感じられるような取り組みをしてみるという逆転の発想を試みるのも良いと思う。
- ・商店街の話では、大阪市内に住んでいる学生が、商店街に元気が無いから何とかしたいと研究を始めるので、私は最初に、学生にいつも商店街で買い物をしているのかを聞いた。そうすると「していない」と言う。あなたが買い物していないのに元気にならないよねと話している。未来を語る時に今の自分の行動も振り返って欲しいと思う。大きな夢も必要だが、こういった自分たちにすぐにもできることもアクションプランに盛り込んでいただければと考えている。
- ・役員の皆さんが頑張ってくれていると思うが、先ほどの話のような、多くの人がちょっとしたことでまちづくりに貢献できるようなことを計画に沢山盛り込んでいただき、広めて行っていただくと、みんなでまちづくりをするという雰囲気が出てくるのではないかと考えている。

(2) その他

(事務局)

- ・1月20日に開催された「新大阪駅周辺地域まちづくりセミナー」についてご報告する。
- ・100名の参加者で、地権者、デベロッパー、建設コンサルタントの方を対象にしているセミナーであり、4

つのプログラムとなっている。

- ・1つ目は、新大阪駅周辺のまちづくり方針ができたのでその報告であった。面白かったのが、昨年8月から11月の間に行った新大阪に関するアンケートの報告で、新大阪の魅力は？という問いでは、やはり交通の便というのが圧倒的に多く、その後、ビジネス、食文化と続いていた。残念なことに魅力なしという回答もそれなりにあって、ちょっと考えなければならぬと感じた。
- ・新大阪駅周辺の改善点は何ですか？という問いでは、やはり滞在空間の不足、景観が良くない、混雑等が続いていて、問題意識はほぼ同じという話であった。また、望ましい将来の方向性というところでは、歩いて楽しめる、緑が多くシンボリックな景観、文化芸術が楽しめるというようなところがあり、これらのアンケートを参考に府市では活用していきたいとのことである。
- ・2つ目は、基調講演ということで、和歌山大学の佐久間先生が、「人のための滞在空間と景観」というお話をされた。印象に残ったところでいうと、新大阪のまちづくりについては、六象限の可能性というところである。六象限の可能性とは何かといえば、東西に新幹線、東側にJR在来線、西側には新御堂や御堂筋線が通って6つのエリアに分かれている。この6つのエリアが、全体としては大きな1つのビジョンに向かって進みながらも、それぞれのエリアがそれぞれの未来を描いていければ、これは新大阪の強みであり、可能性であるということであった。
- ・3つ目は取り組み紹介ということで、新大阪駅南口まちづくり協議会の取り組み紹介があった。この協議会は、地権者、民間事業者等の多様な事業主体が参画し、一体となってエリアと未来を描く組織ということで2024年の3月に発足している。この協議会が主催となって、昨年の11月7日（金曜日）と8日（土曜日）にシンオオサカ・ミナミートフェスという、南口エリアの発信とウォークアブルなまちづくりの実現をめざした社会実験を行った。11月7日に約5300人、8日に約8400人で合計約1万4000人の来場者があり、非常に盛況であったとのことである。来年度も引き続き取り組んでいきたいとのことであった。
- ・また、来場者アンケートも取っており、南口エリアに求める声ということでは、きれいで明るいまち、緑や自然が多い場所、子どもや家族が安心して過ごせる場所、新大阪駅が目的地になるまちというような意見があり、先ほどのアンケートと相当近いところもあり、これを目指して進んで行こうとのことであった。
- ・この協議会でも、新大阪駅南口エリアまちづくりビジョンの策定に取り組んでおられるので、策定された際には、こちらでもご報告させていただきたいと考えている。
- ・4つ目は、パネルディスカッションということで、先ほどの佐久間先生を含めた4名の方でのパネルディスカッションであった。国内外の事例をもとに、色々な主体が同じ方向を向いていくべきだというお話をされていた。

(事務局)

- ・少し補足させていただく。新大阪の大きな開発の話ということで、今まで話題にしていた私たちのまちづくりとは、少し毛色が違うところであるが、私たちも、南口のまちづくりの協議会を覗きに行かせてもらったり、参加されている方のご意見などを聞いたりしていると、参考になる意見もあるので、今後も情報提供をさせていただきたいと考えている。

3. 閉会

- ・次の開催は、来年度の5月頃中旬ごろを予定している。

以上